

高齢者が暮らしやすい住まい・まち

開智中学校・高等学校

実施学年：中等部5年（高校2年）
生徒数：136人（4学級）

実施教科：家庭基礎
実施時間数：6時間

①高齢者理解 ②磯野家リフォーム ③～⑥高齢者が暮らしやすいまち



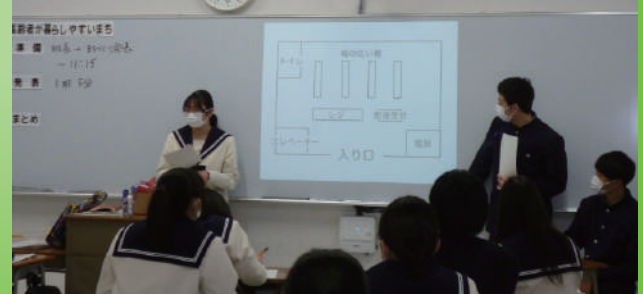
①高齢者疑似体験の様子



②「磯野家リフォーム」の話し合いと掲示物



④まちの調査結果を発表し合う



⑥まちづくり提案の発表

学習のねらい

- 高齢者の心身の特徴がわかり、高齢者が暮らしやすい住まい・まちについて理解する。
- 高齢者疑似体験から、高齢者の不自由さや心情が想像できる。
- 高齢者を取り巻く環境である住まいやまちについて、問題を見いだして解決策を構想し、論理的に表現するなどして課題を解決する。
- 高齢者が暮らしやすい住まい・まちについての課題解決に主体的に取り組み、学んだことを高齢者との関わりの中で実践しようとする。

ねらいに対する学習活動

- ① 高齢者疑似体験を通して、高齢者の身体的特徴を理解するとともに、生活のどんな場面で不自由を感じるかに気づき、その時の心情をイメージしながら、今後自分は高齢者にどう関わっていかうかについて考える。
- ② アニメ「サザエさん」を題材とし、20年後の磯野家リフォームについて、高齢者が安全で快適に生活できるようにグループでアイデアを出し合う。
- ③ 高齢者が暮らしやすいまちを提案する授業の計画と課題を理解する。まちの中の各場所をグループで担当し、クラスとして1つのまちづくりを提案するための計画を立てる。
冬期休暇課題として、高齢者へのインタビュー及びまちの中のバリアフリー化やユニバーサルデザインについての調査を実施する。高齢者がまちの中で困っていることや危険を感じたことなど実際の声に耳を傾けるとともに、各場所の現状を高齢者目線で確認し、まちづくりのための情報収集をする。
- ④ グループで冬期休暇課題の内容を共有し、高齢者がより暮らしやすいまちにするための方法を考え、発表計画を立てる。
- ⑤ クラス発表に向けてプレゼンテーション資料（学習ソフト「ロイロノート・スクール」使用）と発表原稿を作成する。
- ⑥ グループで考えたまちづくり案をクラス全体に発表をする。ノーマライゼーションの視点を理解し、まちづくり授業で学んだことをふり返り、今後の生活にどのように生かすかを考える。

準備品

- ①高齢者疑似体験グッズ（足首用おもり、ひざサポーター、トランクケース、軍手、使い捨て手袋、硬貨玩具、財布、小豆、箸、白内障体験メガネ、表示カード、イヤーマフ、かご）、体験の仕方を説明するカード
- ②磯野家間取り図など資料、マジック、掲示用紙、杖、移動式手すり
- ④～⑥タブレット（学習ソフト「ロイロノート・スクール」使用）

実施場所

- 家庭科教室（①）
- 教室（②、③、④、⑤、⑥）

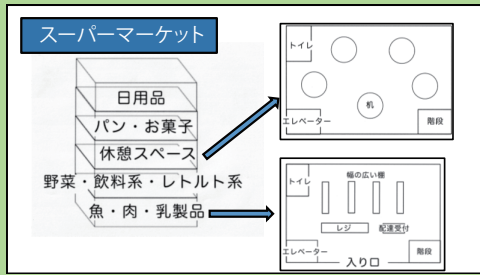
学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応												
<p>家庭科教室</p> <p>(1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の心身の特徴を大まかに理解する。 ●高齢者疑似体験 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで疑似体験を実施する。(A、B、C各10分ずつ) ・【体験A 足・膝の動き】 重りを付けて歩行、膝サポーターを付けての曲げ伸ばし。 ・【体験B 指先の動き】 軍手をはめて箸を使う、軍手をはめて財布から硬貨を出す、利き手と反対の手で文字を書く。 ・【体験C 視覚・聴覚】 白内障体験メガネをかけ新聞やマークを描いたカードを見る。イヤーマフを付けて音や話し声を聞く。 ・体験の感想を話し合う。 ●高齢者の心情を考え、今後高齢者とのように関わろうと思うかをまとめる。 		<p>積極的に体験を行い、不自由さを実感するとともに、高齢者の心情も想像できていた。感想には、「授業では部分別に体験したが、これを全て背負っているのは大変だ」「私たちが苦労なくできることができず、イライラしたり情けなくなりそうだ」「電車で席を譲ろうとして断られた理由が少しわかった」など、高齢者の気持ちを理解し、「ゆっくり落ちついて物事ができる環境づくり」「気持ちを尊重し、その人にあった手伝いをする」「一緒に話をしたりしてわかり合う」など、今後の生活に生かそうとする姿勢が見られた。</p>												
<p>教室</p> <p>(1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の家庭内事故死の件数と原因を知る。 ●床座と椅子座の違いを理解する。 ●20年後の磯野家で高齢者になった波平、舟が安全・快適で楽しく生活できる住まいになるように、リフォームを考える。 ●各自考えた内容をグループでまとめ、発表する。 ●授業をふり返り、わかったことや生活に生かそうと思うことをまとめる。 		<p>身近な「サザエさん」の登場人物のためにリフォームを考える設定であるので、イメージしやすかったようだ。「体験でどのように不便なのか理解できたので、高齢者の気持ちになって考えることができた」や「段差や温度差などのポイントに気をつけることが大切」など前時の学習が生かされている感想も見られた。また、祖父母宅での実践を考える生徒も複数いた。</p>												
<p>教室</p> <p>(1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者が暮らしやすいまちづくりについて、授業の予定を知る。(冬期休業課題で高齢者インタビューとまち中のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン調査を行う) ●まちの中の各場所について、グループごとに担当を決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・道路・駅、乗り物・店舗 ・郵便局、銀行・役場、病院 ・公園、集会場 ●各グループで、調査の計画(分担や見てくる所)を立てる。 ●各自考えた内容をグループでまとめ、発表する。 ●授業をふり返り、わかったことや生活に生かそうと思うことをまとめる。 	<p>あるクラスの各グループが考えた着目点</p> <table border="1" data-bbox="774 1590 1149 1926"> <tr> <td>道路</td> <td>排水溝の網目のフタ、歩道の段差、信号のベル、押しボタン信号のボタンが歩道側か、信号の間隔、休憩スペースがあるか、青信号の延長ができるか</td> </tr> <tr> <td>駅</td> <td>バス・電車の内装、駅のホーム、バス停、表示(時刻表)、トイレ</td> </tr> <tr> <td>店舗</td> <td>通路や出入り口の幅、メニュー(少ない分量、カロリー・塩分表示)、ドア、階段、購入した物を家まで運んでくれるサービス、商品の配置(低すぎたり高すぎたりしないか)、店員のサポート</td> </tr> <tr> <td>銀行</td> <td>ATM使いやすいか、窓口行きやすいか、出入り口はいりやすいか、表示見やすいか、待機場所</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>手すり、スロープ、車椅子(トイレ、エレベーター、駐車場)、表示のわかりやすさ、出入口のインターフォン</td> </tr> <tr> <td>公園</td> <td>公園の入り口、公園の段差、公園の水飲み場</td> </tr> </table>	道路	排水溝の網目のフタ、歩道の段差、信号のベル、押しボタン信号のボタンが歩道側か、信号の間隔、休憩スペースがあるか、青信号の延長ができるか	駅	バス・電車の内装、駅のホーム、バス停、表示(時刻表)、トイレ	店舗	通路や出入り口の幅、メニュー(少ない分量、カロリー・塩分表示)、ドア、階段、購入した物を家まで運んでくれるサービス、商品の配置(低すぎたり高すぎたりしないか)、店員のサポート	銀行	ATM使いやすいか、窓口行きやすいか、出入り口はいりやすいか、表示見やすいか、待機場所	病院	手すり、スロープ、車椅子(トイレ、エレベーター、駐車場)、表示のわかりやすさ、出入口のインターフォン	公園	公園の入り口、公園の段差、公園の水飲み場	<p>まちづくり提案のための計画に意欲的に取り組んでいた。分担場所に着目する点としては、道路(滑る所、青信号の長さ・延長ボタン)、店舗(商品の取りやすさ、値札の見やすさ)、郵便局・銀行(ATMの使いやすさ、オレオレ詐欺対策)、公園(歩きやすさ、トイレ、休める場所)などがあげられ、これまでの学習で得た知識が多く生かされていた。</p>
道路	排水溝の網目のフタ、歩道の段差、信号のベル、押しボタン信号のボタンが歩道側か、信号の間隔、休憩スペースがあるか、青信号の延長ができるか														
駅	バス・電車の内装、駅のホーム、バス停、表示(時刻表)、トイレ														
店舗	通路や出入り口の幅、メニュー(少ない分量、カロリー・塩分表示)、ドア、階段、購入した物を家まで運んでくれるサービス、商品の配置(低すぎたり高すぎたりしないか)、店員のサポート														
銀行	ATM使いやすいか、窓口行きやすいか、出入り口はいりやすいか、表示見やすいか、待機場所														
病院	手すり、スロープ、車椅子(トイレ、エレベーター、駐車場)、表示のわかりやすさ、出入口のインターフォン														
公園	公園の入り口、公園の段差、公園の水飲み場														

学習の流れ

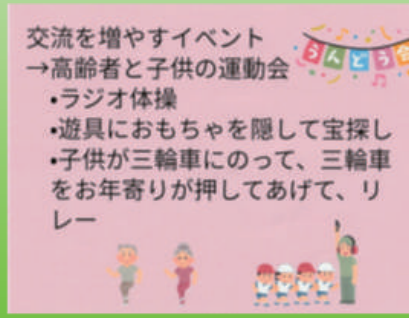
場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>教室 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●発表までのスケジュールと本時の学習内容を知る。 ●冬期休業課題としてロイロノートにまとめた高齢者インタビューおよび担当する場所の調査内容をグループ内で発表し合う。 ●担当する場所について、提案のコンセプトを決める。 ●発表内容の構成を決め、グループ内で資料作成の計画と分担をする。(発表にはロイロノートを使用する。) 	 <p>生徒が調査した内容</p> <div data-bbox="774 645 1155 808" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>スーパー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑列種のあいだなどは車椅子でも通れそうだったけど、レジは通れなさそうだった。 ・駐車場から少し歩かないといけない。 ・座れる場所がない。 ・騒がしいので呼ばれても気づかない。 </div>	<p>冬期休業課題のグループ内発表では、友だちの発表を興味深く聞く姿があった。資料作成のための計画では、グループによっては意見を1つにまとめるのが難しそうであった。</p> <p>提案のコンセプトには、「高齢者にやさしい横断歩道」「高齢者が多くの人と交流できる公園・集会所」「高齢者が快適に利用できる公共施設」などがあった。</p>
<p>教室 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前時計画をした発表資料および発表原稿を各自が作成する。冬期休業課題でメンバーが調査した内容を活用して、時間短縮を図る。 ●発表資料を1つにまとめ、提出する。 ●グループ内で発表練習をする。(発表時間は1グループ5分程度) 		<p>個人でスライド作成をする時間であったが、発表の最後に示す「理想とするまちの提案」については、グループで意見を出し合いながら作り上げていた。</p> <p>これまでの「高齢者の特徴理解」や「高齢者が暮らしやすい住まい」の授業をふり返りながら考える姿があった。</p>
<p>教室 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●グループの代表者が発表を行う。 <p>《発表内容の構成例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案する場所のコンセプト ・高齢者が不自由さや危険を感じている実際の声 ・バリアフリー化やユニバーサルデザインの実例 ・問題があると感じたところ ・まちづくりの提案(担当する場所について) <ul style="list-style-type: none"> ●各グループの発表を聞いて、良かった点や疑問点をプリントにまとめる。 ●ノーマライゼーションの考え方を理解する。 ●高齢者が暮らしやすいまちづくりの授業を通して考えたことをまとめる。 	 	<p>各班伝えたいことを工夫して発表し、聞く方も興味をもって聞けていた。感想には、考えが深まった様子がみられた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①設備面について 「古くからの建物をいかに改善するかが課題だ」「高齢者だけでなくすべての人に使いやすくすることが大切」 ②人との関わりの面で 「困っている人にどう対応すればよいか、学校や職場で正しく学ぶ機会をもつ」「地域や社会でつながりを大切にすればお互いに困ったとき話しやすくなる」 ③今後に生かしたいこと 「暮らしやすいまちとは人々が交流しやすいことが重要。互いに助け合う社会にしていけるよう、挨拶するなど小さなことから始めたい」

児童・生徒の作品



《高齢者に優しい店舗》

- ・移動が少ない5階建て
- ・休憩スペースは交流しやすく
- ・棚の間隔を広く
- ・レジ横に配達受付場所を



先生の声

実施に当たり工夫した点 苦労した点

- ・高齢者疑似体験では、大きく3つの体験（「足・膝の動き」「指先の動き」「視覚・聴覚」）に分けて行い、各機能の低下について深く考えさせるようにした。また、限られた時間内に生徒全員が体験できるように、体験の仕方を図にわかりやすく示して説明時間の短縮を図った。
- ・高齢者理解の授業では体験後、「不自由なとき高齢者はどうしてほしいと思うか」と発問し、不自由さや大変さの理解だけに終わらず、その時の高齢者の気持ちを想像させ、高齢者の尊厳や今後の関わり方についても考えさせた。題材の最初にあたるこの授業で高齢者の心情理解を生徒に促すことで、後に続く「高齢者が暮らしやすい住まい・まち」の授業でも、高齢者の心情を意識しながら学べるようにした。
- ・まちづくり提案の授業は初めて実施する授業であるため、まちの中のどの場所を取り上げるかや、調査活動の内容やそれを行うための準備をどうするかなど迷うことも多かったが、大学教員に助言をいただきながら取り組んだ。冬期休業課題とした高齢者インタビューとまちの調査はロイロノートで提出させた。提出したスライドは、クラス発表のプレゼンテーション用としても活用させ、グループでの資料作成時間を短縮できるようにした。
- ・まちの調査の着目点を考えさせる際には、手すりとスロープを例にあげ、設置されているかどうかだけでなく、安全で使いやすいものになっているかなど高齢者目線で調べることが重要であると伝えた。

児童・生徒の反応

- ・高齢者疑似体験に積極的に取り組み、高齢者の不自由さを体感するとともに、心情についても深く考えられていた。
- ・「磯野家リフォーム」の授業では、よく知っているアニメの登場人物が高齢者になったらという設定で考えたので、一般的な「高齢者」について考えるよりも親身になって、安全・快適で趣味を楽しめるような住まいになるように考えられていた。「リフォームするのはよいがお金がかかる」「自分が家を建てるときには最初からバリアフリーにしたい」など、新たな課題に目を向ける生徒もいた。
- ・冬休みに入る前の授業では、まちの調査でどこに着目するかについて、どのグループも意欲的に考えていた。しかし、生徒にとってあまりなじみのない「郵便局・銀行」や「役場・病院」については考えるのが難しそうであった。
- ・生徒が提出した冬期休業課題の内容を見ると、実際に高齢者に話を聞いたり、担当する場所の写真を撮影して自分なりの気づきをまとめたりしている生徒がいる反面、インターネットから引用した内容をそのまま載せているだけの生徒も見られ、課題についての関心度の差が感じられた。
- ・まちの提案では、各グループそれぞれが担当する場所について、高齢者が生活しやすくなるアイデアをスライドにまとめて工夫して発表していた。高齢者に限らずすべての人が暮らしやすいことに視点をおいた発表も多く見られた。

先生の声

教師の気づき、改善点 (担当、担当外を含めて)

- ・本授業の少し前に「現代社会」の授業でノーマライゼーションに関する授業があったことをグループ発表後に知った。今後は、他教科での既習内容を事前に確認し、授業をより効果的にすすめられるようにしていきたい。
- ・多くの生徒は関心を持って高齢者が暮らしやすい住まい・まちを考えていたが、一部生徒は関心が薄かったことが課題や発表資料の内容からわかった。これら生徒も関心を持って取り組めるよう、高齢者理解の授業の前に高齢者授業への興味づけや目的意識を持たせるための時間を十分にかけることが必要かも知れない。核家族化や近隣との関わりの希薄化、さらにはコロナで祖父母と会う機会が減少していることなど様々な条件が重なり、日常的に高齢者と関わる機会が減っていることを考えると、今後はもう少し丁寧に導入に時間をかけ、高齢者授業への関心を高めていきたい。